

討議テーマ1：

西荻窪で取り組みたいこと、参考になりそうなこと

グループ1

グルーピングしたタイトル	意見
補助132号線の検証	道路全体の整備効果や必然性にしっかり納得したい。
	計画道路のルートについて疑問がある。神明通りでルートがクランクしているのはなぜなのかを知りたい。
	なぜ道路整備が必要なのか、補助132号線の検証効果、前提条件の納得ができるようにしたい。区が公表した整備効果の検証には納得できない点がある。
	拡幅をしないで、ウォークアブルなまちにする。
	デザイン会議は補助132号線の拡幅整備が前提ではないのでは。
	補助132号線の整備目的に納得して協力しているので、今更整備しないという話はないと思う。
防災・みどりの視点	まちのしくみとして補助132号線×防災でみると、今の補助132号線のルートでは神明通りでクランクするため、緊急車両が通れない。
	災害時に本当にこの道の状態で大丈夫なのか。防災という視点で補助132号線を評価したときに、災害時に本当に機能を発揮する道路なのか検証が必要。
	みどり×防災：善福寺川上流の問題。近年局地的なゲリラ豪雨が増加している状況になっているので、現状の防災対策で想定外の水害を乗り越えられるのか。
	環境への負荷を考えたい。
商店街がどうなるの？	30～40年前と比較して商店街の元気がなくなっている。補助132号線をせっかくつくるなら、活かそう。
	昔は映画館が4軒あり、マーケットや魚屋などがあった。今はあの勢いはどこにという状況だ。
ルールづくり・ランドデザイン	道路予定地を活用してベンチなどを置きたい。
	広域な視点から、車の流れなどの道路状況を検証したい。現在優先整備路線に指定されている道路が全て整備されたとしても、その先に繋がらないので渋滞の解消には繋がらないのではないかな。
エリア別で考える	補助132号線沿道のエリア別の問題点を検討したい。
時間軸で考える	すぐ・中期・長期など、トピックではなくタイムスパンで見る視点が必要ではないか。
駅前をどうするか？	駅前の混雑緩和が必要だ。車、バス、トラック、歩行者もごちゃごちゃで危ない。
	何年先を見据えて駅前の整備を考えるのか。15年先、20年、30年先なのか。
	高架下の物流と人流をどう考えるか。

グループ2

グルーピングしたタイトル	意見
みんなが歩きやすい道づくり	段差や道路の傾斜をなくして、みんなが歩きやすい道づくりを考える。
	移動制約者が移動しやすい道（まち）づくり。当事者が参加することが重要だ。
公共交通の利便性を確保した上でのウォークアブル	交通事業者との協働、協議の機会を増やす。セグウェイなどを取り入れるなら事業者のヒアリングを行う。
	歩かざるを得ない街なので、ウォークアブルなまちづくりは良いと思う。一方で、駅まで車を利用したい人がいることについても考えたい。
みどりが大事	まちの緑化事業（西荻のみどりを増やす取組）を推進する。
そうじ活動等の交流	地域コミュニティの形成機会を創出する。清掃活動などにも参加したいが、誰も知らないに参加しにくい。
西荻再発見	西荻独自の文化を守り、まちぐるみで発信する。
	西荻らしい、西荻窪ならではの未来に残したい景色や隠れた名所を再発見し、可視化する（西荻カルタ。西荻カレンダー）。
	西荻らしいまちとは何だろう。南口の柳小路か。
歩行者中心	ウォークアブルシティ西荻窪を目指し、駅周辺に車立入禁止区域、あるいは減速エリアを設ける。
	通過車両が入りづらいまち（道）づくりをする。
	伏見通りなど一方通行路を横切る道に渋滞が起きやすい。
車を利用するしかない人の交通手段を確保	駅から北へ向けて、バスなどによる障がい者の交通手段を確保する。
バスその他	久我山、上井草へのアクセスを改善する。
商店街活性化	ハロー西荻（ウォークラリー）を再開して、商店街の活性化を図る。
	古本屋、喫茶店を活かした文化的なイベントづくりをしたい。

グループ3

グルーピングしたタイトル	意見
道路整備ありきの進め方に疑問	不必要な都市計画道路（補助132号線）の計画を止める。
	道路を拡幅しなくても現状を改善していけば、十分ウォークアブルなまちだと思う。
	デザイン会議の進め方は、補助132号線の整備ありきで、計画を進めている印象があり、疑問である。
	西荻窪駅前の再開発に反対だ。事業認可されてしまった範囲とすでに立ち退きされた方々に対して、どう関わっていけるのかがわからない。
商店街のルール	まちの賑わいや個人商店、商店街を維持、発展させるルールづくりの勉強（条例、計画など）をしたい。
	商店、商店街の存続を支援する。

自転車のまち・駐輪場が足りない	杉並を自転車のまちにといいつつ、駐輪場が少なすぎる。皆で駐輪場の場所探しをする。
	まちのしくみ・ルールを作る。全体的に駐車場、駐輪場も足りない印象であるので、駐車場や駐輪場などを整備してほしい。
みどり	緑の整備をしたい。植栽を楽しみながら手入れする。
	個人宅、社宅、民間の建物などに対して、もっと行政が支援するなど関与して、緑を増やしていきたい。
車・人・自転車の道の棲み分け	まちのしくみ・ルールを作る。車が補助132号線の一本入った通りの住宅地に進入してきているが、その通りは、自転車や歩行者が多く通るので、車の通過は避けたい。
	このまま一般的な都市計画道路として整備されるのは避けたい。
	歩行者天国の日などを月1度でも設けて、歩行者優先でゆっくり回遊できる日をつくるのはどうか。
人が中心のまち 新しい道路を公共空間として考える	人口増問題。西荻窪エリアは、人口が増えている。道路をつくるにしても、車中心ではなく、人中心の道路・まちとしたい。反対・賛成の意見を出し合うのではなく、人優先であるためには補助132号線はどうあるべきかを考えて、イメージを共有していけるとよいのではないかな。
	一方通行が多く、住宅地に車が入ってきてしまう。地域住民など人優先の道にし、車が入って良い場所との棲み分けをしたい。
道路用地の活用	道路用地の活用を検討する。(交通、道路、街並み)
駅前自由に情報発信できる場がほしい	月1回駅北口で街頭宣伝をしているが、いつもJRの駅員に出ていけ、うるさいと言われていて。表現・行動の場がなさすぎる。駅前広場に街頭宣伝やバザーに使えるスペース、憩いのスペースなど自由にできる場がほしい。
情報の場・子どもの居場所づくり	子どもの居場所、イベントなどの情報の周知をする仕組みを考えたい。西荻は子どもの居場所などで活動をしている人たちが多くいるのに、広く知られていない。
	子どもも巻き込んだ西荻エリア全体でのイベントの企画。
	空き家活用をして、居場所づくり・コミュニティづくり、情報交換の場づくりをしていきたい。居場所づくりは子どもだけにこだわらなくても良いのではないかな。いろいろな立場の人が来られるようにすればよい。
参考になる	話題提供にあった、まちの空間に芝を敷いて、子どもや親子の遊び場をつくる。お年寄りなどが休める空間を作ることは良いと思う。
進め方に疑問だった	今回の会議の進め方はよいと感じた。これまでは具体性がなく疑問を感じていた。ここからが第1回と感じた。
	道路問題について取り組む内容が、対話のまちづくり、まちのデザインにすり替えられてしまったと思う。
進め方に疑問だった、考えていきたい	防犯や防災など、誰でも参加しやすいボランティア活動を実現する。
勉強会の実施	バス会社、警察、学校、住民、行政など多様な人が同じ目線で話せる勉強会があると良い。
今のものを改善・修復型で	既存のまちの良さを守り、活かしたまちづくりをする。
	現状で十分。快適で良い街だ。
	わざわざいじらず、今の状態を維持したい。

グループ4

グルーピングしたタイトル	意見
商店・既存コンテンツ	アート、デザイン、本、音楽など、まちにある既存コンテンツを活かしたまちづくりをする。
	本と商店街の活性化プロジェクトを行う。
	魅力のある商店街が点在している西荻窪で、その源となっているのは何なのか。この解明が将来につながるのではないかと。まずは魅力が何なのか突き詰める。
	商店街とまちなみをどうするのか考えたい。
	得意分野をまちづくりにどう活かすのか。
つながり	現在、町会のつながりが希薄であるため防災対策が不安だ。町会のつながりを意識した防災対策を考えたい。
	まずは気軽な気持ちで参加できる清掃活動などから始めてみてはどうか。
	周りの人と協力して住宅地に緑を増やす。
道路	買収した用地の利用について考えたい。
	補助132号線の第1期工事区間のまちづくりについてまず考えたい。
	交差点における歩道部の傾斜を無くしてほしい。脚が動かなくなってくると傾いて危険だと思う。
	補助132号線の拡幅工事は税金のムダ遣いだと思う。
	善福寺川調節池の工事で、空洞、陥没が起きたら不動産価格が下がると思うが、どのような保障があるのか知りたい。
タイトルなし	補助132号線の整備にあたって当事者の方に丁寧に説明をする必要がある。
	西荻の南の神明通りは、朝夕の交通量は多少多いが夜はほとんど通らず静かだ。神明通りの拡幅及び住宅街に入る新設道路設置には反対だ。
	補助132号線の第2期工事は止めましょう。西荻の街を破壊するでしょう。
	都心の森ビルと西荻のまちは正反対である。
	杉並区と人口の近い、人口45万人の金沢市の事例研究が参考になりそうだ。
	オランダやベルギーの事例のように「広場」から全てが始まる。

グループ5

グルーピングしたタイトル	意見
交通について	日本一のスマートコミュニティにしたい。西荻窪にはスマートコミュニティになり得るポテンシャルがある。
	トラフィックコントロールを行いたい。
	RFID技術（電波を使ってICタグの情報を非接触で読み取る自動認識技術）を用いた交通規制と模範的な運転者へのインセンティブ付与により、自転車交通の管理を行いたい。
	道路の構成を再検討し、車道を可能な限り減らして歩道を広げたい。また、車道と歩道の間のスペースを有効に活用する方法を模索したい。

交通について	道路デザインの検討を行いたい。歩道・車道の割り振りや、自転車レーン、街路樹等を検討したい。エリア内で過去に起きた事故について調査し、検討に反映させたい。
	歩行者優先の道路づくりの多様な方策を社会実験として順次実施し、地域の人と共有したい。
	歩きたくなる西荻にしたい。杉並保健所開催の「公園から歩く会」の活動も活かしてほしい。
	車（交通）の視点、人（コミュニティ）の視点、商店（賑わい）の視点はそれぞれ異なる。それぞれの視点から道路について考えたい。
環境	屋根の上に太陽光パネルを設置し、コジェネレーション（1つの燃料で電気と熱を同時に生成し供給するシステム）によるゼロエミッションコミュニティを目指したい。
	最大のエネルギー消費者である路線バスのゼロエミッション化を進めたい。
	直流バス（電力システムにおける直流電力を流すための経路またはバスバー（導体））の整備を進めたい。
	地下水涵養による温度差エネルギー採取を行ったり、人工せせらぎを整備する。
道路×グリーンインフラ	道路用地で実現できるグリーンインフラ（緑化・雨水利用）に取り組みたい。
	雨水管理の取組をする。
	道路用地を活用し、花と緑を用いた景観づくりに取り組みたい。
まちの賑わい・商店街	立ち退き商店の代替店の提供等、商店存続や営業のバックアップ方策の検討を行いたい。
	商店街の維持や、立ち退きの影響を受ける店舗の継続を支援するための組織作りについて検討したい。エリアマネジメントの導入が適切なのか、相談会の開催が有効なのかなど、最適な形態を探るところから始めたい。
まちづくりの組織	住民が主体となった地域のまちづくり活動に対する公的支援の事例や施策についての情報を知りたい。
まちなみ	無料で利用できる居心地の良い場所として、道路にベンチが設置されているといい。ベンチ設置の補助金に注目しており、乙女ロードの個店が設置している椅子が気に入っている。
	量り売り商店の普及。実施しているところがあれば教えてほしい。
タイトルなし	電柱の地中化を進めた方がよい。
	直ぐにできることと、10年かけることを分けて考えるべき。
	道路構造令に準拠した補助132号線拡幅に反対だ。

グループ6

グルーピングしたタイトル	意見
西荻の歴史・資源の共有	西荻北地区は武蔵野台地の縁に位置し、自然環境が残された。100年にわたる住民活動の痕跡(けやき公園)が残されている。これらの時系列で培われた資源は今でも活用できる。基盤上の道路等それらの地域の地域価値(コモン)を住民相互で確認できる活動として西荻コモン部会を立ち上げたい。
道路の使い方・あり方	道路の断面計画について、単純に考えるのではなくヒューマンスケールな生活との関係を丁寧に考えたい。エリアごとにお店の状況や交通量も違うはずだ。
	道路というと車中心になりがちだ。みどり、人、自転車、車が危険では無く、共存できる道・まちのあり方を考えたい。
	寺内さんの話にあった「部屋の中」としての西荻窪らしさの魅力は既にあるのではないか。改めてつくるのではなく、掘り起こせば良い。
空地の利活用→みどり	土地公社が持っている分も含め、用地購入した箇所をできるだけ早く活用する。そのための部会発足もしたい。
	認可区間の空地を休憩やみどりのある場に利用する。
	西荻窪地域はみどりが少ないエリアなので、みどりと公園の保全や善福寺川をまちの子ども、大人、みんなが身近に感じられる場にする部会をつくりたい。
商店街の活性化	商店街(マイロード)の活性化を行い、地域全体の活性化にもつなげる。
美化活動	道路の定期的な清掃をすることで、歩きやすい道にすると共に、多世代の交流の機会を生み出したい。
参考になりそうなこと	下北沢の紆余曲折のやりとりを詳しく紹介してほしい。地元の元区議会議員がネットにもあげている。今日紹介されているようなことはきれいな面ばかりだ。
	下北沢はきれいにまちが整備されているが、西荻窪は必ずしもまちをきれいに整備にすることがゴールではないはずだ。
	補助132号線は歩車分離して、生活道路よりは外周道路にした方が良いのではないかな。
	施設計画のアイデアは、ハードのアイデアではなく、すべて住民のソフトのアイデアが基点となっていると感じた。我々もそうありたい。
タイトルなし	今日の話提供の切り口だけで無く、様々な立場から講師を招き、勉強したい。

グループ7

グルーピングしたタイトル	意見
ウォークابل・回遊性	西荻北エリアの回遊性を強化する。ミニバス路線が少ない。
	関東バスを小型化する。
	女子大通りへの商店誘致を行い、回遊性を強化する。
	二子玉川の事例に倣って、車両交通の動線検討、ゾーニングの策定をする。

交通マナー	交通、通行ルール、マナーづくりはすぐにでも取組を検討できるのではないかと感じた。ルール、マナーを策定し、商店街や公園、道路、などに掲示して啓蒙する。
	車両を進入禁止にした際の対策として、共用で使える荷台の様なものをシェアして使えるように設置するのはどうか。
民の力	まちづくりを行う際には、官民共にリソースを出し合うことが必要になる。取組ベースで検討することも重要だが、どんなリソースが出せるかといった観点で考えることも必要かなと考えた。
	民（商店街、学校、町会、個人等いろいろなコミュニティ）でリソースの提供がどのようにできるのか。本取組は官主導になっている。民主導での取組にしないといけない。
当事者意識	行政と市民の信頼関係を再構築し、維持する。
	下北沢で住民の当事者意識が変化したきっかけや仕掛けがあったら知りたい。
	まともな人間関係にもとづく地域づくりをする。
話し合いの方法、決め方	デザイン会議がエリアマネジメント機能を持つようにする。
	下北沢では様々な否定的な意見が多かったと聞くと、どのようなプロセスを、誰がどうやって合意形成をとっていったか知りたい。
	全員参加の仕組み作りのため、なるべく多くの人の意見、関心を集める。SNSやzoomを使ったり、駅で情報発信する。
	補助132号線のことを知らない人も多いので、掲示板などを利用して周知する。
小規模の場所の運営	事例であがったまちづくりは、大規模なスペースをどのように有効活用するかといったところがポイントであったが、区画が細かい西荻窪エリアでのスペース活用をどのようにするかをよく考える必要があると感じる。
	小さい空地スペース的なところをどのように有効活用していくか。
JRとの協議	高架下の空間活用にあたって住民も絡むようにする。
	駅ガード下の有効活用として公共施設を入れる。
R132（補助132号線）	エリアで役割を分け、空き店舗、空き地の有効活用。
	防災道路として道を広げる。
	補助132号線の開発意義を整理する。広い道路は横断しにくいので回遊性の妨げになると思う。
	補助132号線の効果検証として、まちなみ、商店・商業振興などの面でまちがどう変化するかを検証する。
	都市計画道路の必要性を感じるまちもあると思う。

グループ8

グルーピングしたタイトル	意見
道路の空き地を活用したい	「まちなかにみどりを増やしたい」をテーマに提案したい。駅周辺の道路の街路樹で何ができるか考えたい。共通の目標を具体化したい。
	空き地に食べられるみどりを植えて、区民で維持管理したい。
	空き地の暫定利用アイデアコンテストを開催したい。
	空き地を区も目指しているグリーンインフラとして様々なことに活用させていこう。スタッフと住民がアイデアを出しあい、除草から始めて他の例（下北含む）も勉強し、緑豊かなに西荻にしていこう。
健康という視点でまちを考えたい	「歩く」以外の運動を知る、運動ができるヒント。
自転車交通を調査で改善したい	自転車駐輪問題。
	自転車側に立った提案と調査（乗る人が多いので）。
	自転車交通を調査改善したい。
参加型の調査がしたい	交通実証の調査。拡幅予定の道路は誰が使っているのか。歩き、自転車、車など。
	住民の方々も交えた交通調査（子どもたちや障害のある方も参加）
	交通の困りごとの調査：車に乗る人、歩行者、来店者、お店（沿道）の人などに心配ごとや困りごとを聞く。
まち歩きで現場を知りたい	西荻区内でのまち歩き＋近隣事例のまち歩きで現場を知る。
道路活用の社会実験をしたい	道路に関する様々な社会実験。
	駅前の自転車、自動車のすみ分けや車の規制。文化イベントとして、駅前ほこみちや歩行者天国などの社会実験をしたい。
まちの活動をもっと共有したい	町会、民生委員など地域の活動も様々あるので、情報共有ができると良い（区の補助を得て木のベンチを街に設置したことなど）。
	西荻東銀座会あさ市は50周年を迎えた。地域の方が参加するようになって良かった。
運営組織を考えたい	住民主体のエリアマネジメント組織の運用。
勉強会をしてみたい	拡幅道路に関する勉強会を望む声が多い。それぞれの専門家を呼んで、道路計画の歴史、他国の事例など勉強会、学習会を開こう。
居場所づくりをしたい	子どもと大人のサードプレイス、多様な居場所づくり。
	子育てが終わった世代の交流。

グループ9

グルーピングしたタイトル	意見
ウォーカブル 歩行者・子ども・高齢者 自転車の走行場所	二子玉川と下北沢は住民の熱意がすごいと感じた。西荻ではどうやって広げたら良いのか。商店街や町会からか。
	すでに西荻窪はウォーカブルだ。ただ、車椅子の方のことなどは意識できていないので、その点是要検討だろう。
	子ども、高齢者、自転車、朝、昼、夜あらゆるポイントから移動しやすい道（まち）づくりができると良い。例えば子どもの視野、高齢者にとっての明るさ、歩いて移動できるように休憩ポイント、車椅子、ベビーカー、歩行サポート器具などを使って移動しやすい道幅（ベンチ、給水ポイント）などいろいろあると思う。
	寺内さんの「部屋の道づくり」について現状の西荻の道路計画と違いがあるように思った。「部屋の道づくり」は四方を囲む道路についての話だったと思うが、西荻の道路計画は補助132号線のみなので部屋にはならないのではないかと。車利用ではない人のことを考えた道路になってほしい。
	道路法改正に伴う歩行者、自転車、車の西荻エリアにおける対応を考える。
	西荻としてのウォーカブルとは何かをデータ化したい。
	追い越し禁止の道で、自転車が道路交通法改正で車道を通るようになり車が渋滞する。どう対応したら良いか。
緑のことが気になる みどりのつくり方 緑を活用して・意見収集	駅付近や空き地などの緑化計画を進める。
	シモキタ園芸部はステキな取組だと思った。補助132号線を拡げなくてもできそうだと。
	点在する公園やケヤキなどの大きな木を拠点とした、定期的な催しが開催されてもよいのではないかと。デザイン会議には出てこない人達からもそこでリアルタイムで意見を集められると思う。人が寄り付きやすいように、杉並区のゆるキャラなみすけを活用したコーナーを作っても良いのではないかと。
区議会をさかなにしてワイワイ意見交換	区議会が荒れてるらしい。住民が気軽にウォッチして、ワイワイ感想を言い合う機会を増やしたい。
タイトルなし	外国籍の方を見る機会が増えた気がする。住民だと思うので実態を知りたい。外国籍の住民が増えているのならば多文化共生を考える必要があると思う。
	まちににぎわいは別にいらない。静かに落ち着いて暮らせることも大事だと思う。